

下多田集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成29年 4月24日

修正日：平成 年 月 日

市町村名	日南町	組織名	エコフレンドリーファーム
1 地区の範囲 日野郡日南町 下多田・親和及び和田原地区			
2 地区の概要			
水田面積 23,194ha	主な水田栽培作物 水稲	3地区計 18戸	
認定農業者 1経営体	人・農地プランの中心となる経営体数 2経営体		
3 組織化及び集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
	【項目】	【現状】	【目標】30年度
組織の概要	設立時期 (規約等の制定日)	平成15年 4月 1日 (平成15年4月1日)	
	組織の形態 (該当形態に○を記入)	・未組織 ○共同利用型 ・作業受託型・協業経営型	○共同利用型・作業受託型 ・協業経営型
	構成農家数	7戸	7戸
農地の集積	集積面積 A	12,332ha	13,617ha
	対象水田面積 B	19,051ha	20,181ha
	集積率 A/B	64.7%	67.5%
世代交代への取組		—	—
新規就農者の活動参画		—	—

- 注1) 目標は、事業実施最終年度とする。
- 2) 設立時期の目標欄は、ビジョン作成時に組織が設立されていないときのみ記載すること。
- 3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。
- 4) 集積率の目標は、50%超が採択要件。
- 5) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。
- 6) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増、世代交代への取組、新規就農者の活動参画のいずれかでも可。ただし、世代交代への取組又は新規就農者の活動参画の欄に現状及び目標を記載すること。

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

- 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標
集落営農組織「エコフレンドリーチーム」は、平成15年に立ち上げ下多田集落の5haの農地から始まり、翌年より対象地域を周辺集落「親和・和田原」へと広げると同時に構成メンバーも増え、本格的な共同作業・機械共同利用を開始しました。
以降、地域の担い手と認められ対象地域の農地の64.7%を集積するまでに至りました。「農地を守る＝集落を守る」を基本に集落営農の強化を進めていきます。

農地の集積：農地中間管理機構を活用し規模拡大を図る。
- 2 水田の作付計画(水稲以外の作物を含む)、活用方針・具体策
平成27年度集落営農ビジョンの達成により順調に進んだ農地集積・野菜栽培面積拡大ではあったが、28年は異常気象等の影響を受けた。

水稲：引続き売れるコメづくりとして、特別栽培米を生産出荷致します。
28年度実績：全量特別栽培米を生産出荷
夏場の高温でカメムシが大量発生し被害を受け収益減少を招いた。1等米維持のために色彩選別機の導入を行う。
自主的な自給調整の手法として、圃場条件不利地への非主食用米栽培に取り組む。

野菜：基幹作物であるブロッコリーの増反が図れた。
28年度実績：135a
異常気象が続く露地野菜に大きな被害が発生し、規模拡大に見合った収益アップが出来ていない。異常気象に強い作型・品種等を試作検討し、収益の安定を図る。
カラーピーマン「あまびー」・強甘味キャベツ「寒じめキャベツ」の2品目が食味コンテストで入賞した。この入賞がテレビ・新聞取材を受け好調な売れ行きを示し、販売単価アップにつながった。29年は第3弾として、極甘味スイートコーンの栽培試験を実施し、食味コンテスト入賞を目指す。同じ品目でも特色のある品種の作付及びその特色を生かした差別化(ブランド)化を進めることで、売れる物づくりを実践する。
- 3 農業用機械施設の効率利用
農地の集積及び受託作業は、地区内に限定することで移動時間の短縮等作業効率の向上が図られ、農業機械施設の有効利用ができ、全てに有利となる。
農地の集積が進み面積が拡大し、機械能力の不足が見られるため、機械能力の向上が必要となっている。
- 4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針
後継者育成
28年度は日南町新規就農者の農家研修を受入れ、ピーマンを中心とした支援を行った。引続き有望農業者の育成に参画し、後継者発掘に努める。

世代交代
野菜収入を柱とした営農の確立を目指し行った、明渠・振動サブソイラーによる暗渠排水対策及び高畝栽培によるブロッコリー栽培は、安定生産には必須と確認された。又、水稲においては疎植栽培に取り組み、大幅に育苗に係る費用削減が図られた。今後も栽培技術の向上及び合理化に取り組み、収益を確保してスムーズな世代交代を進める。
- 5 経営多角化の方針・具体策
日南町内のもち製造会社とのもち米契約栽培の検討。
地域の有名観光資源名を利用したブランド米の検討。
特色あるブランド野菜の開発。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
色彩選別機	2 t/h	1台	2,916,000	H29.7	○
農機具保管庫	50 m ²	1棟	2,160,000	H29.7	○
トラクター	35PS	1台	4,914,000	H30.3	○